カナダ金融政策（2024年6月）

G7の先陣を切って利下げを開始

2024年6月6日

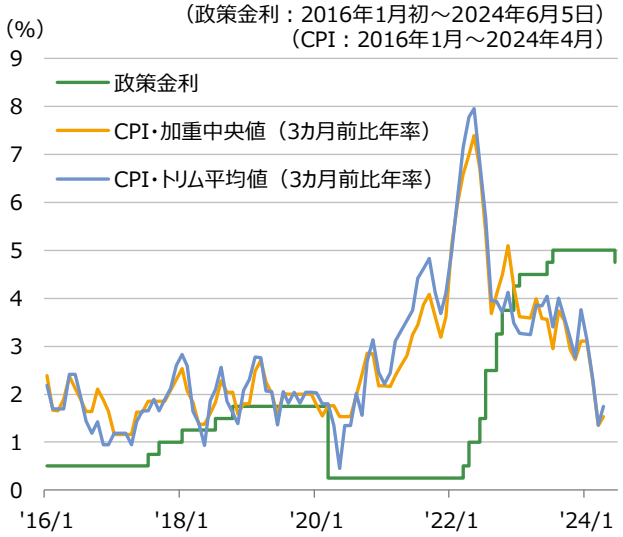
インフレ沈静化を示すデータが続けば、次回会合でも利下げを検討か

カナダ銀行（中央銀行）は6月5日（現地）に金融政策決定会合を開催し、政策金利を5%から4.75%に引き下げることを決定しました。なお、バランスシート正常化（量的引き締め）の方針は維持しています。

CPI（消費者物価指数）は4月に前年同月比+2.7%まで伸びが鈍化し、基調的なインフレ動向を示す加重中央値とトリム平均値の3カ月前比年率はいずれも+2%以下で推移しています。こうした状況の下、声明文では「基調的なインフレ率の持続的な鈍化を受けて、金融政策がもはやそれほど引き締め的である必要はなくなった」、「最近のデータによりインフレ率が目標の2%に向かうとの自信が深まった」と利下げ決定の背景が説明されています。今後についてマクレム総裁は「利下げを急ぎすぎれば、これまでの成果を台無しにする恐れがある」とする一方、インフレ沈静化が進めば「追加利下げを想定するのは合理的」とも発言しており、今後のデータ次第では次回7月会合でも利下げを検討する可能性を示唆しました。

市場では今回の決定に関して利下げ予想が優勢でしたが、一部に政策金利の据え置きを予想する市場参加者もいたことや、市場の想定以上に次の利下げに前向きな様子がうかがえたため、発表後の国債利回りは幅広い年限で低下しました。一方、カナダ・ドル円は発表直後こそ下落しましたが、その後は市場心理の改善などもあり下げ幅を縮小しました。足元では、カナダと日本の金利差縮小に比べてカナダ・ドル円が下げ渋る動きを見せており、今後カナダ銀行が利下げを進める中で両者の乖離が続くか注目されます。

カナダの政策金利と基調的なインフレ率



※政策金利は決定日ベース

（出所）ブルームバーグ、カナダ統計局より大和アセット作成

カナダと日本の金利差とカナダ・ドル円

（出所）ブルームバーグより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

■当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。

■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。